

<プレハブ校舎>

開校にあわせて2ヶ月弱の突貫工事で、プレハブの仮校舎が完成。新校舎完成までの三年間使用されました。当時は校地内に民間使用の廊下が通っており、体育館への渡り廊下を貫通していたそうで、全校集会の入退場には多くの時間を費やしたそうです。旧校舎と新校舎を結ぶ長い廊下（100m以上あったそう）は、「シベリア街道」と名付けられていたそうです。よほど寒かったのでしょうか！



<グラウンド整備も自力で>

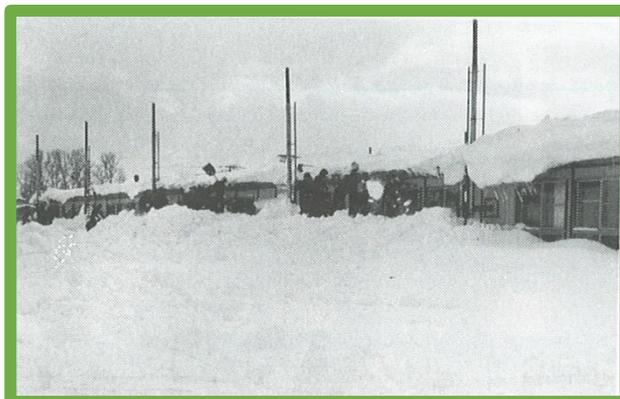
現在使われているグラウンドは生徒と先生方の手で整備されました。体育の授業や短縮授業後の放課後に、こ草刈りからスタートし、鍬を使って土をおこし、全校生徒で定期的に石拾い、ローラーがけ。春から始め、夏には新たに生えてきた草が腰の高さまで育って心が折れそうになったと記録があります。野球場の陸上トラックの測量やポイントまで自力で行ったそうです。

周囲は牧場と畑に囲まれており、牛の鳴き声を聞きながらの作業だったようです。



<今日の体育は雪かき！冬は通学も命がけ？>

冬になると積雪との闘いが始まります。周囲が畑なので容赦なく吹きだまりが出来たのでしょうか。プレハブ校舎の窓を覆うほどの雪となることも多かったようです。もちろん学校に除雪車はなく、たくさん積もった日の体育授業は「雪かき（校舎の掘り起こし）」が定番だったようです。1978年3月には猛吹雪でバスが不通となり、現在の北36東26まで徒歩で集団下校。ところが、途中から視界がゼロとなり、あわや遭難しかけたことも。多くの生徒が引き返して、校舎や先生方の公宅に泊まったそうです。



<待望の校舎落成>

1978年4月、待ちに待った校舎完成のときを迎えました。もちろん、現在皆さんが生活している校舎です。

丘珠空港に近いので、最新の防音技術が施され、自動送風装置が備わった様々な機能をもつ最新型校舎（当時は）だったそうで、周辺の高校からは羨望的だったそうです。今では修理が必要な箇所が増えてきましたが、卒業生の思いがたくさん詰まった校舎です。大切に使いしていきたいですね。

